

視覚資料の効果的な活用の仕方について

—社会認識を深めるための資料の効果的な活用—

前 島 美 佐 江

はじめに

2008年1月17日に中央教育審議会答申で出された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」の中で、社会科の、特に歴史の改善のポイントについて以下のように述べてある。

歴史分野においては、我が国の歴史の大きな流れを理解させ、歴史について考察する力や説明する力を育てるため、各時代の特色や時代の転換にかかわる基本的な内容の定着を図り、課題追究的な学習を重視して改善を図る。その際、現代社会についての理解が深まるよう、近現代の学習を一層重視する。また、例えば身近な地域の歴史学習などの中で、様々な伝統や文化について学習させるとともに、我が国の歴史の背景にある世界の歴史の扱いを充実させる。さらに、諸事情の意味や意義、事象間や地域間の関連などを追及して深く理解し自分の言葉で表現する学習を重視する。

このように歴史の大きな流れを掴むという、現行の学習指導要領を一層重視したものといえる。それを踏まえ、昨年度より島根大学附属学校園社会科部では、「社会認識の構造化」をはかる授業実践に取り組んでいる。個別の事実・事象の理解のみにとどまらず、事実・事象間の意味づけ関連性を理解し、知識のネットワーク化を図るというものである。そして、学習を終えた後には「〇〇時代は△△な時代だった」というように生徒たち自身がその時代のイメージをふくらませ自分たちの言葉で時代を語れるようになってもらいたいと考えている。例えば「室町時代は民衆の一揆や守護大名の反乱が多く幕府の力が弱い時代であった。また、家臣からのし上がる戦国大名が登場するように下剋上の時代であった。一方でこの時代の民衆たちは、座の結成や惣村の結成などいたるところで結束を強めた。民衆が力をつけてきたのは、商人や手工業者の成長とそれを支える技術革新や交易の影響の相乗効果である。」という、時代を大観するイメージをいかに生徒に深く捉えさせるかが重要と考える。そのためには、単元構成の工夫と教材開発を両輪としてすすめる必要があると考える。今回はイメージをふくらませるための視覚教材の活用の仕方について研究することとした。

1. 研究のねらい

本研究では、時代を大観させ生徒たちの時代のイメージをふくらませるのに適切な視覚教材の1つとしての「タイムスリップ」（歴史教科書：帝国書院）を用いた学習展開を工夫し、生徒の社会認識が深まる指導法について考察する。

2. 研究の理由と方法

筆者は、今年度から、社会認識を深め時代を大きく捉える歴史の授業に取り組んでいる。1学期は、広い視野で抽象的な概念として「律令制」をとらえることを目指して歴史の授業をおこなった。そのために「天皇を中心とした国をつくるために」という「中核となる視点」のもとで、子どもたちに身につけさせるべき知識・技能を明確にした単元構成をおこなった。また、それらの知識・技能を活用する場として調べ学習や発表などの学習に取り組んだ。次の文章は、学習の最後に「律令制」について意見を書かせたときのある生徒の意見である。

役人が社会を動かしたり、きまりによって国を治めるしくみをつくったことは「当時としてはよくやったな」と思うが、農民への比重が少し重かったと思う。農民たちがかわいそうな気もするが、国を責める気にはなれない。人をまとめることは本当に難しいと思う。農民たちの負担の上

に国の力を高めていかなければ他に国に攻められていたかもしれない。そうになったら人々はもっと大変だったと思う。

この文章からは事実・事象を関連づけたり、意味づけたりし、貴族や農民といった異なる立場から「律令制」を総合的にとらえることができ、学習前とくらべ社会認識が深まった様子がうかがえた。しかし、時代が進むにつれ民衆の立場や経済の視点からも関連づけや意味づけをおこなう必要がでてくる。よって、歴史的事実や事象間のつながりも多岐にわたり複雑になるので、生徒たちにとって取り組みやすい時代を大観できる教材（ここでは「タイムスリップ」）を活用した実証研究を進めていくこととする。最初に、「13～14世紀へのタイムスリップ」の読みとりを単元の学習を始める前におこなった。「気づくことを何でも良いからあげよう」と生徒たちに投げかけた。「タイムスリップ」を用いての授業が初めてだったせいもあり、個人差もあるがあまり読み取ることができなかった。イメージをふくらませることに適切な資料であるが、提示方法や活用方法を工夫しなければいけないと改めて思った。よって、次のような手順で実践研究をおこなうものとする。

- (1) 単元の学習の前後にイメージマップを描かせ、生徒たちに自分たちの認識や認識の深まりについてとたえさせるとともに、研究者である筆者が子どもたちの認識の深まりをとらえる手立てとする。
- (2) 「タイムスリップ」（歴史教科書：帝国書院）を用いた学習展開を開発する。
- (3) 生徒たちの学習の振り返りなどから、今年度の授業実践が本研究の目標を達成するものと成り得たかどうかを検証する。

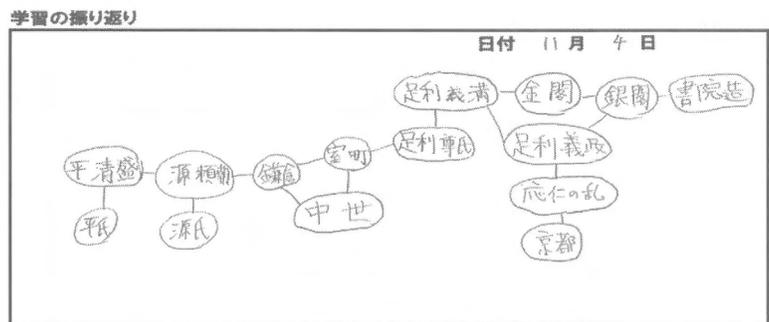
3. 研究の実際

14世紀から15世紀にかけての中世後半（おもに室町時代）の単元で、「15世紀へのタイムスリップ」を用いた単元構成をおこない、生徒たちの社会認識を深める授業を実践した。

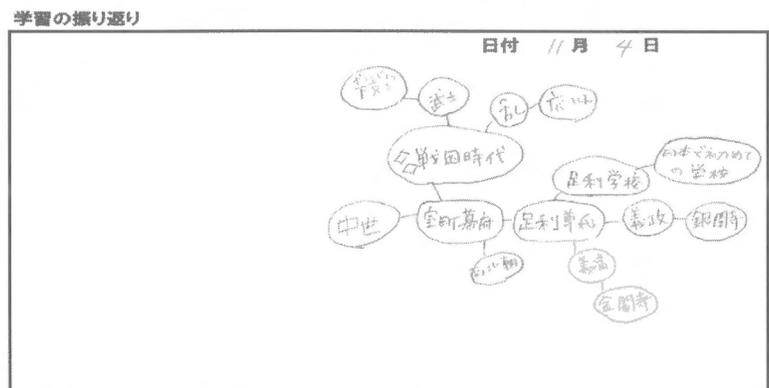
(1) イメージマップによる単元の学習前の生徒の認識

小学校では、文化を中心に室町時代を学習しているので、多くの生徒のイメージマップに、「書院造」「金閣」「銀閣」といった断片的な用語が表れた。そのイメージマップの用語が増え、相互に関連づけ網の目のように広がっていくさまが、社会認識の深まりを表すものだと思われる。そのためにも、習得させるべき知識を明確にし、「15世紀へのタイムスリップ」を用いた単元構成を考えた。

(ある生徒のイメージマップX)



(ある生徒のイメージマップY)





「15世紀へのタイムスリップ」(教科書：帝国書院)

(2) 「15世紀へのタイムスリップ」を用いた単元構成

時数	テーマ	学習問題	学習活動
1	15世紀へタイムスリップ	15世紀の日本社会の特色をおおまかにつかもう……①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1枚のイラストから15世紀の日本社会の特色を見出していく。 ・ 4つに観点にもとづいてさまざまな事実を引き出す。
2 3 4	発見！北海道から大量の古銭が！	北海道からなぜ大量の古銭がでてきたのだろうか。……②	<ul style="list-style-type: none"> ・ イラストの中で、貨幣を使って物の売り買いが行われている部分から考える。 ・ 大量の古銭が出てきたところはどのような地域か考える。 ・ 北海道との交易の窓口としての十三湊の発展を考える ・ 琉球王国のおこなった中継ぎ貿易と当時の日本の交易網について考える。 ・ イラストから交易の発展がうかがえる部分を見つけ出す
		大量の中国銭はどうやって日本に入ってきたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出てきた古銭が中国銭だった理由を考える。 ・ 朝貢貿易としての勘合貿易について考える。 ・ イラストから貨幣経済の浸透がうかがえる部分を見つけ出す。
		日本ではなぜ貨幣が造られなかったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貨幣が日本で造られなかった理由について考える。 ・ 貨幣の鑄造に何が必要か考える。 ・ 室町幕府の仕組みについて考える。 ・ 室町幕府の税収入について考える。 ・ イラストから幕府と地方の関係がうかがえる部分を見つけ出す。
⑤ 6	結桶革命！容器から社会の変化を探ろう！	結桶の登場で、社会はどのように変化したのだろうか(1)……③	<ul style="list-style-type: none"> ・ イラストの中から、飲酒の習慣が室町時代に広まったことを考える。 ・ 酒造りと酒の販売に使われた容器は、瓶か桶か考える。 ・ イラストに描かれている瓶と桶から、それぞれの容器の特徴について考える。 ・ 実物を触ることで、根拠をもって推理する。
		結桶の登場で、社会はどのように変化したのだろうか(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 酒造りの発展と、他の産業の発展について考える。 ・ 大鋸の登場による造船業の発展や、結桶師や船大工といった職人の登場をイラストの中から見つけ出す。 ・ 結桶の登場による農村の変化について考える。

7 8	支配者VS 民衆、勝つ のはどっち？	民衆の団結！自分 たちの利益を守る ために	・成長した民衆たちが団結してきたことを考える ・イラスト（※）から一揆について考える。
		戦国大名の出現！ 新たなるリーダー を求めて。	・人々はどうような人をリーダーとして求めたのか考える。 ・戦国大名になって、領国を支配するための政策を考える。

① 第1時：学習課題「15世紀の日本社会の特色をおおまかにつかもう」……単元の学習の最初での活用（鳴門教育大学：梅津正美氏の授業を参考にさせていただく）

a：身分・職業，b：服装・身なり，c：道具・品物，d：外国との往来の4つの観点にもとづき，イラスト「15世紀ヘタイムスリップ」からさまざまな事実を見つけ出させる。そして，4つの観点にもとづいて見つけ出した事柄と事柄との結びつきや意味づけを自分なりに考える。さらに，室町時代についておおまかなイメージをつかみ，今後の学習の見通しをもった。

② 第2時：学習課題「北海道からなぜ大量の古銭がでてきたのだろうか」



……授業の導入での活用

3時間の学習で「貨幣」から導かれる様々な学習課題を考えることを通じて、「政治権力のゆるみ」という室町時代のキーワードの1つを生徒たちに捉えさせたいと考えた。その導入で，この場面を活用した。「これは何をしている場面だろうか」という教師の問いに対し，何人かの生徒がすぐに「お金を出して物を買っている」と答えた。しかし，「ドーナツみたい」「ひもに通しているのはなぜ」といった疑問の声も上がった。当時は，財布の代わりにひもに通して腰にさげていたことや，当時の貨幣価値の話をするので，イメージを膨らませることができたようである。また，実際に当時の中国の古銭を100枚準備し室町風にわらに通して生徒に見せたことも効果的であった。「わあ，薄い」「読めないけど何か字が書いてある」「今のお金と比べてもろいな」などの生徒の反応があった。できる限り実物教材を準備することの大切さを改めて感じた。

③ 第5時：学習課題「結桶の登場で社会はどのように変化したのだろうか」

……授業の中心資料として，生徒の思考を深めために活用

I. 本時のねらい 容器と酒の広まりとの関連を自分なりに予測し，大量生産と大量輸送を可能にした結桶の登場の意味を捉えることができる。

II. 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師のはたらきかけと願い
1. 室町時代に飲酒の習慣が広まったことを知る。 ・酒を飲むことが広まったんだな。 ・博多の酒も各地で飲まれたんだな。	・中世の博多のイラストの読みとりをおこない，当時の生活への関心を高めていきたい。 ……(A)
2. 本時のめあてを確認する。	
桶か瓶か？博多の美味しいお酒が全国でたくさんの人に飲まれるようになったのは，どっちの容器のおかげだろうか。……(B)	

3. 結桶か瓶か、自分の意見を書く
 - ・瓶は蓋もできて輸送に便利ではないか。
 - ・瓶のほうが丈夫そう。
 - ・桶は木でできているので、軽いのではないか。
 - ・桶は割れないから、持ち運びが楽ではないか。
 - ・今でも小さい瓶でお酒が売られているから瓶ではないか。
4. 班でそれぞれ推理を出し合いまとめる。
 - ・瓶のほうが丈夫だから長持ちする
 - ・瓶はつるつるしていて持ちにくい。
 - ・桶はきちっと蓋ができて簡単にはとれない。
 - ・桶のほうが軽い。
 - ・桶は重ねて積むことができる。
 - ・桶のほうが大きいものをつくることのできるのでは。
5. 班からでた推理を黒板でまとめていく。
 - ・軽くて割れない結桶の登場で輸送しやすくなり、大量に各地に運ばれた。
 - ・桶は大きなものをつくることのできるので、お酒も大量につくられるようになった。
6. 今日の学習をふりかえる。
 - ・この時代の産業の発展はすごかったんだな。
 - ・結桶の登場で、他にはどんな変化があったのかな。
 - ・結桶以外にも産業の発展に役立った容器はあるのかな。

- ・桶と瓶に実際に水を入れて生徒に示し、2つとも液体を入れるのに適した容器であることを確認しておく。
- ・班活動をしたときに、班の意見をまとめやすくするため、各自の意見を書くカードを用意する。 ……(C)
- ・実際に触ってみることによって、根拠をもって推理ができるよう、桶と瓶の実物を大中小それぞれ3つずつ準備する。
- ・円滑に班活動が進むよう、活動内容と時間を黒板であらかじめ示す。
- ・班の意見をまとめたフリップを黒板にはっていきることにより、生徒の思考をまとめる助けとする。
- ・生徒の意見をまとめていきながら、結桶の登場で大量生産と大量輸送が可能になったことをおさえる。
- ・本時の学習についてふりかえりを書かせることで、自分がどれだけ理解できたかを自覚させるとともに、できたことを認めていきたい。

(A)での活用

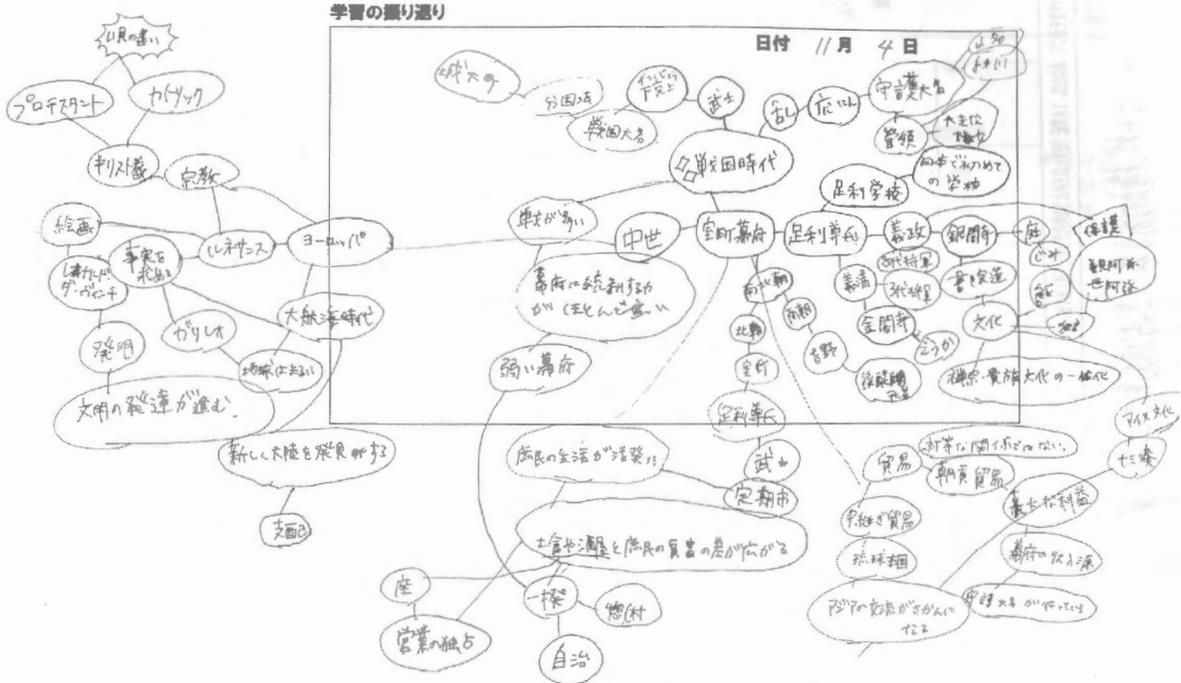


3時間の学習で「桶」から導かれる様々な学習課題を考えることを通じて、「経済の発達」という室町時代のもう1つのキーワードを捉えさせたいと考えた学習の1時間目での活用である。飲酒の習慣が庶民の間に広まったことを生徒に気づかせるために活用した。

(B)・(C)での活用



(イメージマップY)



室町時代とは

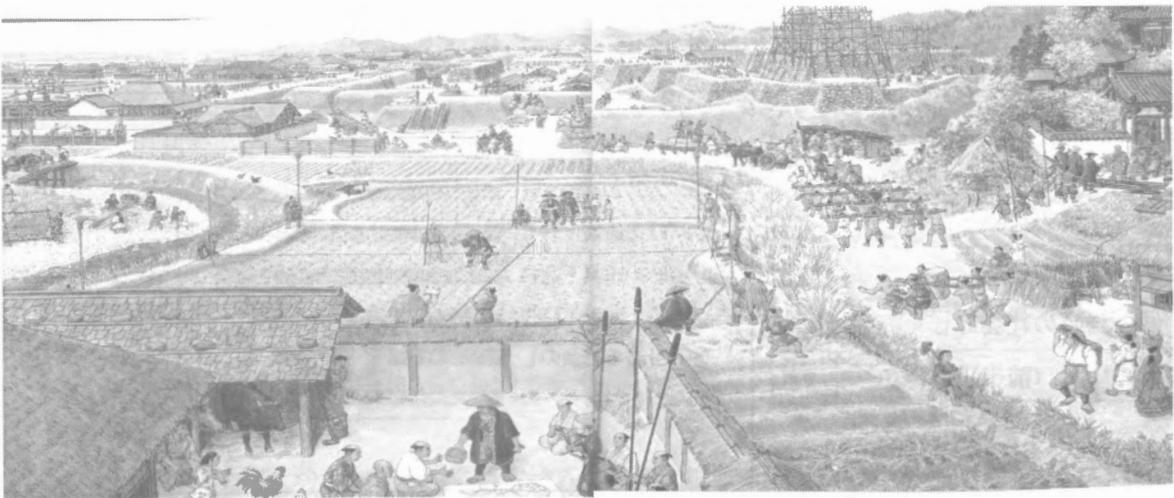
将軍の権力が弱かった。そのうらで文化が発展し、庶民もその文化に参加できるようになった。貿易が盛んになり、お金持ちが増えた時代で、その分、貧富の差も広がった。政治の力が弱く、争いが絶えなかったため、自分の身は自分で守る時代だった。将軍や庶民、関係なく一人一人が輝けた時代であった。

イメージマップから、単元の学習前にはなかった、経済や民衆の視点から見た知識のまとまりが、生徒たちの中にできており、社会認識が深まった様子がうかがえた。

(2) イラストについての生徒たちのアンケートより

① 「16世紀へのタイムスリップ」の活用

(イラストを用いての単元構成・学習としては13世紀・15世紀に続き3回目の取り組み)



「16世紀へのタイムスリップ」(教科書：帝国書院)

1. イラストに書かれている単語の読み取り、読み取りできなかった単語を
 ① 読み取ることができた単語の色
 が書かれた紙に、①から⑥の分類した単語を記入する。

筆 類 級 級

2. 以下に示した単語をイラストに「イラ」(16世紀)の色をなす単語を記入する。

イラノ所・類	身分・職業	騎士・僧侶	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)
	イラノ所・類	身分・職業	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)
イラノ所・類	身分・職業	騎士・僧侶	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)
	イラノ所・類	身分・職業	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)
イラノ所・類	身分・職業	騎士・僧侶	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)
	イラノ所・類	身分・職業	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)
イラノ所・類	身分・職業	騎士・僧侶	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)
	イラノ所・類	身分・職業	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)
イラノ所・類	身分・職業	騎士・僧侶	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)
	イラノ所・類	身分・職業	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)
イラノ所・類	身分・職業	騎士・僧侶	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)
	イラノ所・類	身分・職業	騎士(騎士団員)・僧侶(僧侶)

16世紀(15世紀)
 農民の自由がつけられ、権力者がなくなり、農民が活躍する時代

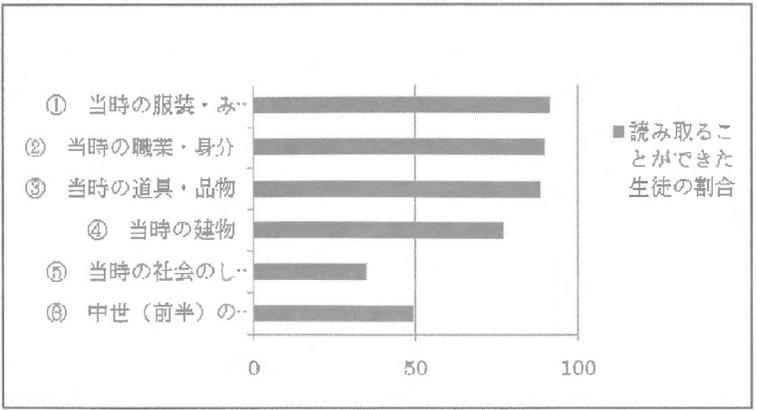
単元の学習のはじめにおこなうイラストの読み取り

単元の最初にイラストの読み取りを行い、その時代のイメージを膨らませながら単元の学習をすすめていく、という手法も3回目となると生徒たちも慣れてきて、時代の本質にせまるキーワードを読み取る生徒も増えてきた。「16世紀へのタイムスリップ」からは、「権力者」「秩序」「統制」「身分の固定」といった、中世から近世へと移り変わっていく際の時代のキーワードをとらえる生徒が多かった。それにより、イラストを用いることにより、生徒の興味関心を高め、漠然とした時代のイメージを捉えることにとどまらず、時代の本質をとらえ、時代を構造的に組み立てる学習へと高まることがわかる。

② 今回の実践を通じて、イラストが時代の特色を捉えるために有効であったかを確認するため、1年生の歴史の学習の最後に次のようなアンケートを実施した。

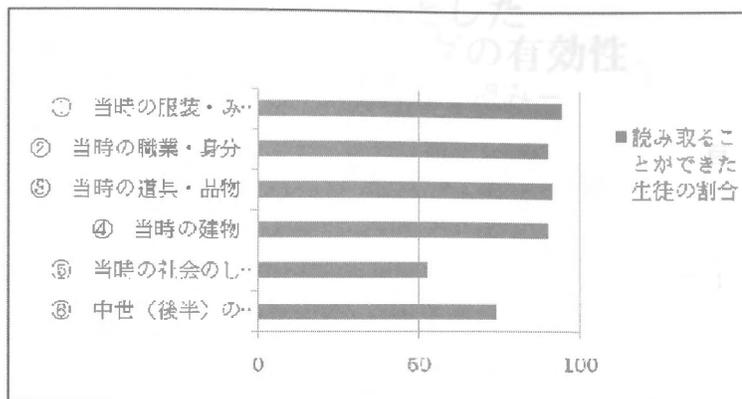
質問1：あなたがイラスト「13世紀へのタイムスリップ」からわかるものを(理解することができたもの)をすべて○しなさい。

① 当時の服装・みなり	
② 当時の職業・身分	
③ 当時の道具・品物	
④ 当時の建物	
⑤ 当時の社会のしくみ	
⑥ 中世(前半)の特色	



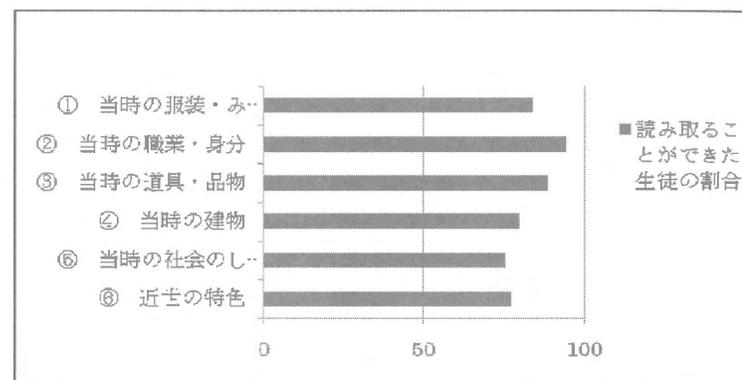
質問2：あなたがイラスト「15世紀へのタイムスリップ」からわかるものを（理解することができたもの）をすべて○しなさい。

① 当時の服装・みなり	
② 当時の職業・身分	
③ 当時の道具・品物	
④ 当時の建物	
⑤ 当時の社会のしくみ	
⑥ 中世（前半）の特色	



質問3：あなたがイラスト「16世紀へのタイムスリップ」からわかるものを（理解することができたもの）をすべて○しなさい。

① 当時の服装・みなり	
② 当時の職業・身分	
③ 当時の道具・品物	
④ 当時の建物	
⑤ 当時の社会のしくみ	
⑥ 中世（前半）の特色	



このアンケートから、当初はイラストから生徒が読み取っていたものは、「服装・みなり」「職業・身分」「道具・品物」といった、事実・事象が中心であった。しかし、イラストを使った単元構成と学習展開により、イラストから「社会のしくみ」「時代の特色」を読み取ることができた生徒がそれぞれ52%と74%となった。そして、「16世紀へのタイムスリップ」では、「時代の特色」を読み取ることができた生徒はそれぞれ75%と77%であり、イラストが社会認識の深まりに役立ったことがわかった。

4. まとめ

中学1年生の歴史学習はそれまでの人物中心の歴史学習から通史へと変わるために、どのように歴史学習に取り組むかという姿勢を方向づける大切な時期だといえる。学習する内容も増えるため、知識重視になりがちである。しかし、「社会認識の構造化」をはかる授業実践に取り組むことで、習得した知識を関連づけたり意味づけたりし、歴史を構造的に捉える視点を培うことができると思う。その際には、難しい概念をわかりやすく生徒につかませるためにも教材開発が一層重要になってくる。今回はイラストを中心資料として用いたが、今後も実践研究を続けより効果的な指導法の確立を目指していきたいと考える。

参考文献

・平成20年度 第1回 幼小中一貫教育研究発表協議会 指導案集